

特集／海の恵みをいつくむ
平成26(2014)年7月1日発行
頒価／1,000円(送料別途)

発行

大阪ガス(株)
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人
木全吉彦

企画・制作
豊田尚吾

編集人
湯原公浩

編集
(株)平凡社

Art Direction & Design

岡本一宣デザイン事務所

校正

(株)アンデパンダン

DTP制作

(有)ダイワコムズ

印刷・製本

(株)東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネスクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for
Culture, Energy and Life
©2014 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複製 ※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を表すものではありません。本誌バックナンバーのコンテンツやエネルギー文化研究所(CEL)の活動内容は、インターネットホームページでご覧いただけます。

海とともに生きる

大阪ガス(株)
エネルギー・文化研究所
所長

木全 吉彦

Kimata Yoshihiko

今回の特集では「海の恵み」を取り上げました。

ユーラシア大陸の東の沖に、南北3000kmにわたって大小7000近い島々が連なる島国日本は、1万5000以上の山(日本山岳会HPより)が国土の3分の2をおおう山の国。そして豊富な降水が森林や田畑を潤し、河川・地下水を保持する水の国です。

山から流れ出る川は2万本超(一級+二級:平成25年国土交通省統計)。途中、窒素やリンなどの栄養塩を取り込んで海へ注ぎ、食物連鎖の起点となる植物プランクトンを養います。さらに列島を包むように流れる黒潮、親潮などの海流や、緑の小島を浮かべる内海が豊富で多様な水産資源を形成しています。

山と海、その間をつなぐ川によって作り上げられたのが日本。その自然の恵み^{さんしずいめい}を享けて生まれたのが日本人の暮らしと言えるのではないのでしょうか。山紫水明、白砂青松の美しい風景は、幕末、鎖国が解かれて初めて日本を訪れた欧米人の目を大いに楽しませたことでしょう。

しかし、時代が下って狭い国土に多くの人間が住み、活発な経済活動によって生活水準が上がるにつれ、その基盤は脆弱になっています。経済のグローバル化によって辛うじて需給バランスは保たれているものの、エネルギー自給率4%、食料自給率40%という現状は決して放置できるものではありません。

世界6位の広さを誇る日本の海(排他的経済水域)は、水産物の供給源としてのみならず、洋上風力や潮汐力、海水温度差発電などのエネルギー資源、熱水鉱床などの鉱物資源、海浜リゾート、クルーズなどの観光資源と、多面的に利用できる純国産資源です。

レジャーが多様化するなか、海水浴や釣りを楽しむ人が減り、子どもたちが魚を食べなくなるなど、最近、「海が遠くなった」という話をよく聞きますが、1年で最も海が近くなるこの季節、生命を生き、育む「海」に思いをはせたいものです。

「私の耳は貝のから

海の響をなつかしむ」

(ジャン・コクトー『耳』堀口大學訳)

CELからのお知らせ

生活者視点で作った『エネルギー読本』を発行しました。

本誌101~106号に連載した「エネルギー講座」全10講を1冊にまとめた『エネルギー読本』を発行しました。

生活者視点で、家庭でのエネルギーの使い方や省エネルギー、住まいとエネルギーについて解説、さらに電気や都市ガスの供給システムや制度の紹介等、読者の皆様にこれからの暮らしとエネルギーにつ

いて考えていただく構成となっています。

また、この『エネルギー読本』に出てくる用語の解説を収録した『暮らしとエネルギー用語集』を合わせて発行しました。

いずれも、大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所のウェブサイトから、ダウンロードいただけます。冊子をご希望の方は、下記URLからお申し込みください。

